

「マーケットの^法読み・^未読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◇◆◇ No.0869 ◇◆◇

25/12/03

【ドル/円、2022年以降の12月相場は「大変動」だが…】

先日終了した11月相場の変動は5.07円(152.82-157.89円)。「今年の月間最小変動」——などということはなかったが、それでも2ヶ月連続で4円台の変動にとどまつた7-8月にかなり近い変動で、再び市場動意が鈍化していることは間違いない。その一方、先週もレポートしたように、ユーロ/円やポンド/円は11月に今年の年間最高値を更新しており、スッカリ「主役の座」を譲り渡している感を否めないようだ。さて、そんな11月相場を受け、足もとの12月相場は果たしてどう動くのだろうか。恒例となっている過去の経験則を参考にした場合、過去3年はすべて「なかなかの大相場」をたどっているのだが果たして今年は如何に!?

◎年の瀬故か、政治や金融中心に12月は「ニュース」にも要注意

まずは「過去の経験則」をもとにした、12月相場の戦績を振り返ってみると、1990年以降昨年まで過去35年間の戦績は勝率19勝16敗となっていた。ややドル高が有利ではあるものの、勝率的には55%程度とさほど大きく偏っているわけではない。

とは言え、先月にも軽く振れた話だが、12月は四半期末に当たるということで、いわゆるリパトリエーション。海外勢による本国への資金回避の動きなどを背景に、「年末に向けてドル高有利」——の話が取り沙汰されることがただでさえ少くないが、経験則的にもそれがある程度は確認されていると言えるかもしれない。

そんな12月相場について、別の「特徴」がないか調べてみたところ、2つほど興味深い事象が判明した。順を追って説明すると、ひとつは「値動きそのものはさほど大きくない」ということ。年間を通してあまり動かず、値幅の乏しい月になることが多い。

しかしながら、直近の3年間だけに限ると、実は逆に「荒れ模様の12月相場」をたどっている。実際の月間変動幅をみても2022年が7.61円、2023年は8.08円、そして昨2024年は9.44円の変動を記録していた。市場参加者のひとりとしては、4年連続の12月大相場、先月からの巻き戻しをまたもや期待したいところだが、果たして今年はどう動くのだろうか。

また12月相場のもうひとつの特徴としては、たとえ値動きが乏しかったとしても、「一方向に偏った値動きを辿り易い」ということが数多く観測されている。これは経験則から見てわずかに有利なドル高ではなく、逆のドル安方向へ動いても、おおむねそうした傾向がうかがえていた。

実例として、昨2024年を挙げると、月初2日のオープンレートは149.55円。翌3日に月間安値148.65円へと小緩むも、その後は一貫して右肩上がり。結果9円を超える上昇をたどり、7月以来の高値158円台をつけ、月間クローズは157.22円。ローソク足における月足は、ほぼ「陽の丸坊主」に近い大陽線だった。いずれにしろ、方向性は別にして、今年の12月相場も「一方向に偏って変動」に注意を要したいところだろう。

一方、過去のニュースを調べた場合、12月は金融それも「為替」に直結して重要な事件が起こることが多いようだ。幾つか例を挙げると、「日本が金本位制を停止(1931年)」「スミソニアン合意(1971年)」「豪ドルが変動相場制へ移行(1983年)」「日経平均株価が史上最高値38915.87円をつける(1989年・当時)」「韓国が完全変動相場制へ移行(1997年)」——などとなる。

また、一年の総決算にあたることもあってか「日債銀が経営破綻(1998年)」のような大手企業の経営破綻や政治的なイザコザも少なくない。

国外で言うと、昨年はまさにその典型ともいえる事象、「韓国で戒厳令が発令」され、これがのちに尹大統領や韓首相の弾劾へと繋がつたことは、いまだ記憶に鮮明だ。また、昨年はフランスでバルニエ政権がわずか3カ月で瓦解、マクロン大統領が12月13日にバイル氏を後継の首相に任命してもらいた。

それに対して、国内はというと、過去に起こった12月の事象で言えば「衆院が『黒い霧』解散(1966年)」——がもっとも有名だろうが、2022年の12月は「政治とカネ」をめぐる問題で、自民党の薦浦議員がまず辞

職。そして秋葉復興相の事実上の更迭、水田政務官の交代——と自民党で連日のようなゴタゴタが発生し、岸田政権(当時)の屋台骨が大きく揺らぐキッカケとなったことも記憶に新しい。また翌2023年も、いまだ一部野党が問題視している自民党の安倍派を中心とした「パーティー券収入不記載疑惑」が最初に発覚。「東京地検特捜部が松野前官房長官、世耕前自民党参院幹事長から任意で事情聴取」——などが起こっている。

幸か不幸か、昨年12月はそれほど目立った日本の政治的醜聞は聞かれなかつたが、今年は予断を許さない気がしてならない。

周知のように、完全に中国サイドの「言いがかり」だが、ともかく日中関係が過去最悪レベルに落ち込んでいるなど、気になる政治ファクターは国内、海外とも目白押しの状況。日本において「12月の衆院解散・1月総選挙」も一部で取り沙汰されるなど、何があっても不思議はなさそうだ。(了)

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただけようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

100

Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved

◆◆◆